かさおか

発行所
天理教笠岡大教会
かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
（0865）
電話 66−1311
FAX 66−1314

真 金 分 教 会

大正15年７月７日　豊松村宣教所設立
昭和47年９月26日　移転改称

本年の活動目標

「おぢばがえり」

・「喜びいっぱいのおたすけ」を目指し、さあ、おぢばに帰ろう 。
・「人だすけのおぢばがえり」を通して、ぢば一つに心を寄せよう。

立教185年
7月号

縦の伝道講習会 開催

5・21 祭典講話に替えて

少年会

少年会(武内正美団長)は、5月月次祭の祭典講話にかえて、少年会本部委員・西 正一郎先生を講師に「縦の伝道講習会」を開催した。

先生は、「さんさい」や「リトマガ」を編集する出版部の御用のほか、災害救援ひのきしん隊の主事をつとめられております。

お話しの中で、縦の伝道の大切さ、「こどもひのきしん」から始まる「こどもおぢばがえり」の歴史と現状、育成会員のつとめなどについて、おさしづや真柱様お言葉などを引用されながら、こども達には「ひのきしんの喜び」・「おぢばがえりの喜び」・「この道を歩む喜び」という3つの喜びを感じてほしい、そして育成者には、「先を楽しみに、やさしい心で道のこども達を育てさせて頂きたい」と話を結ばれました。以下、先生が引用された「おさしづ」・「真柱様お言葉」などです。

▼①内統領先生のお話

¶ コロナ禍における活動について

・人は何かが起こると、誰かのせいにしたり、責任を追及したりという考え方に陥りがちだが、道の信仰者は、すべては親神様のお導きなんだという思いを持って、つらい思いをしている人を受けとめてあげるような、大きな心にならせていただきたい。今回のふしをチャンスと受けめ、これまで気づけなかったことに気づかせてもらい、一人ひとりの感覚をやさしさへと変えていけば、そして、やさしい心を伝える努力を心掛ければ、あとは親神様が補ってくださる。「これしか出来ない」ではなく、「これが出来る」と、いま出来ることを喜ぶのがお道の考えではないか。

▼②二代真柱様

¶ 縦の伝道について

・よのもと会は、横の布教のうえにしっかりと手をつなぎ合っていただきたい。いちれつ会なり少年会なりは、縦の伝道のうえにしっかりと、杖となり柱となっていただきたい。そして各自おや達は、自分の乳を含ましたこどもに、乳と一緒に自分の喜びを伝えてやっていただきたい。

・皆さん方の中には、親の信仰に反対しないまでも、ついて来ないこどもをお持ちの方があるだろう。世界へ出てしまって帰って来られなくなったこどもをお持ちの方もあるだろう。長男だから教会で世話をする、次男だから勝手にしろという時代もあった。しかしながら、幾人のこどもを与えていただこうと、おやの喜びをこどもに伝えること、それは最も肝心なことでありながら難しいこととされている。しかし、難しいからといって放っておくわけにはいきません。(中略)横の布教の忙しさに紛れて、縦の伝道を怠っていなかったか。子から孫へ伝わる血の流れのように、おやの喜びはこどもの喜びであり、こどもの喜びは孫の喜びであるというように、この道は続いておってこそ道と言えると申したい。

▼③逸話篇103「間違いのないように」

¶ どのようにして信仰を伝えるか

間違いのないように通りなさい。間違いさえなければ、末は何程結構になるや知れないで。

↓

間違いのないように通るには「地図」や「先導者」が必要。この地図にあたるものが「教祖のひながた」であり、先導者にあたるものは「育成者」。

▼④おさしづ

¶ 信仰の元一日を忘れない

神の自由して見せても、その時だけは覚えて居る。なれど、一日経つ、十日経つ、三十日経てば、ころっと忘れて了う。

（M31・5・9）

¶ 小さい時に身につけたものは一生の土台になる

上原佐助小人出物の障りに付願

もう道というは、小さい時から心写さにゃならん。

（M33・11・16）

¶おぢばは親里。運ぶ者も満足、受け取る者も満足、小さな運びも大きく受け取って下さる。そして満足の理から芽が吹く、これがおやの思召。

この所は親里、をやとは深き理、深き理なら心の理を運ばねばならん。口で説いてばかりではをやの理とは言わん。一時の理を以て些かの処運んでくれる処は、十分に受け取る。日々に尽す処、運ぶ処、年々という。（中略）いかなる者も出て来る。出て来たなれば、暑ければ暑かろう寒ければ寒かろうと、満足さすがをやの理。（M23・6・23）

満足すれば一所やない。世界に映る。不足で行くくすれば、理が消えて了う。何処までも皆々満足集まって道と言う。これだけ一寸話して置こう。満足十分さしてやってくれにゃならん。満足の理から芽が吹くで。これをよく聞き分けてくれ。（M37・2・6）

雅楽講習会 開催

雅鶯会

雅鶯会（田中隆之楽長）は、コロナ禍の影響で中止を余儀なくされていた雅楽講習会を5月28日大教会で開催、講師3人、会員11人が参加した。

午前10時開講。昼食をはさみ午後3時まで各管に分かれて練習。その後、合奏を行い午後5時閉講した。

夕づとめ後、感染症対策を徹底したうえで親睦会を行った。

今回は一日のみの講習会だったが、講師の熱意あふれる指導のもと、受講した会員も終始真剣に練習に取り組み充実したものとなった。

（雅鶯会員　山野弘実）

前列左から、滝川先生（篳篥：浪速分・眞心分）、田中楽長、
住田先生（龍笛：名東大・賀竹分）、森川先生（鳳笙：笠岡大・弓ヶ濱分）

・詰所からのお願い・

●詰所での宿泊・喫食について

・詰所で宿泊・喫食される場合は、「教会名・代表者名・泊数・食数」を、**《2日前までには、必ず》**ご連絡ください。

笠岡の道編纂委員会 史跡探訪 実施

史料部

「笠岡の道」編纂会議は、毎月3日に開催しているが、大阪上原家備佐時代の史跡を訪ねてみるという事で、6月26日実施した。思えば、大教会史は出来上がってはいるが、史跡を訪ねたのは筆者のみ、しかも私費で行ったので、今回大教会の公費で、しかも若手気鋭の編纂者4人、大教会長さんとのコンビで行えたのは、まことに前代未聞の事であった。それだけ、笠岡の人々にはあまり上原家の成り立ち、歴史を知る心持ちが薄いという事なのか、それとも今更初代様、佐吉様がどんな暮らしを、どこでしておられたのか、エエヤないかという事なのか、今回千載一遇のチャンスと笠岡を26日朝6時半出発した。他の編纂委員、大教会長さんはおぢばという事で、編纂委員最古参の私と写真、動画記録担当の者と2人、眠い目をこすりながら(早朝4時15分からの神殿掃除、5時からの朝づとめ)出させて頂いた。午後1時過ぎ、やっと大教会長さんが車に乗って下さり天理を出発、2時過ぎ、長堀の地下駐車場に車を預けて地上に出る。かんかん照りの中、長堀中橋の碑を探す。あった！ 40年程前と同じ所に同じ格好で、この中橋の北詰に佐吉先生が20有余年勤められた備嘉の店があり、南詰に佐吉先生は暖簾分けで家屋敷を備嘉から戴き、畳表の商売を始められた。「ま、このビルが本店とすると、明治の初め頃には、中橋南詰一帯に数十棟の倉庫が在ったという事なんや」最古参が遠くを見るような目つきで話す。其の後鰻谷筋を西に歩き心斎橋筋、左に折れて南へ雑踏をかき分ける様に進む。ソフトクリームコーヒーカップ片手の若い人ばっかり、新進気鋭の編纂者達も歳年取って見える。「ハイ。このあたりが佐吉先生が住まわれていた隠居所です。」時間節約のために写真記録員は何故か国勢調査員と書いたファイルに挟んだメモ用紙を眺めながら言うなり、ビデオカメラで忙しくあちこちからその角地を撮影する。「それでは次ぎに新町の西店、破産を前に規模縮小して移転した西店のあたりを見に行きましょう」この時点で最古参は暑さと人いきれ、睡眠不足でなんとなくダルダル、長堀通りまで北上して一路西へ、まず公園に(名前忘れ)到着、「移転縮小した西店はこのあたりです」言うなりあちこち写真ビデオ取りに歩き回る。元気やな40年程前の僕みたいや、とサングラスで隠した目でその姿を追う。「じゃ、新町の西店に行きまひょか」とまたてくてくと歩き始める。20分ほどして、「はい、ここです」国勢調査員のファイルに挟んだメモをみながら記録写真、記録ビデオ。「このあたりは西区でここの警察署に島村伊助先生は務めておられた。備佐の西店を知っていた、と笠岡に来られて仰った」と最古参が話す。ふと横を眺めると、ネムノキがあって、ピンクと白の可愛い花がしっかりと咲いている。「芳井の教会から美星に上がる313の谷筋にようけいあるんやで」と余分な蘊蓄も語る。大分バテテいるみたい。ふと時計を見ると3時を廻っている。「大教会長さんが6時までに天理にと言っておられるのでそろそろ長堀の本店跡に帰らんといけんな」という事で帰路に着いた。のはよかったけど、田舎者で大阪に住んでいたという人も土地勘がにぶっていたのか道に迷って、長堀中橋に皆ぐったりとして帰り着いた。誰言うとなくワイらの記念撮影という事で中橋の40年前と変わらぬ碑を中心に一枚パチリ。「ほんじゃ、今日はここまでとしよう。難波まで天理帰りは歩く？ それとも地下鉄で行く？」難波・天理の団参券は渡しておいたのですが・・・笠岡帰りは地下駐車場にもぐって乗車、帰ってきました。大教会長さんはじめ数人の方々に笠岡の歴史の最初をチョボッと覗いて貰ってよかったです。（「笠岡の道」編纂委員また元笠岡大教会史編纂委員・大教会史執筆者　上原繁道）

中橋跡と備佐のあった場所

六月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます
親神様の子供かわいい一条の親心溢れる御守護により 木々の緑が色濃くなる時期となり じわじわと高まる気温と湿度に夏の訪れを感じながら 日々結構に恙なく暮らさせて頂いております事は 誠に有難く勿体ない極みでございます 私共はかしものかりものの喜び感謝の心一杯に朝夕に御礼申し上げると共に 御恩報じの心でたすけ一条のご用の上に努め励ませて頂いております
その中にも今日の吉日は 理のお許しを戴いた 月に一度の御祭日でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同心を一つに睦び合わせて 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて六月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が 相共にお歌を唱和し日頃のご高恩に改めて御礼申し上げる状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます
さて今年も夏のこどもおぢばがえりの季節が近づいてまいりました 残念ながら今年もこどもおぢばがえり自体は開催されませんが 夏休みこどもひのきしんやみちのこサマーステージ 鼓笛お供え演奏 鼓笛オンパレードなど様々な行事が夏のおぢばにて計画されております おぢばで開催されるこれらの行事をしっかりと活用し 道の子ども達に信仰の喜びを伝える事ができるようにつとめ励ませて頂く所存でございます
何卒親神様には 陽気ぐらしを目指して道の後継者の育成に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に自由のご守護を賜り一列兄弟が助け合い睦び合う陽気ぐくめの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百八十五年 六月月次祭 祭典役割表

祭主	大教会長様
扈者	吉岡誠一郎
	虫明立生

講話	吉岡寿

八月講話	布教推進講習会

賛者	浅野明教
	岡﨑治喜
指図方	田中隆之

役割＼区分	坐り勤	前半	後半
地方	佐藤道孝	中島誠治	今川昌彦
	三島渉	山野弘実	森本忠善
	三代温生	岡﨑治喜	杉原善朗
おつとめてをどり	大教会長様	上原志郎	門脇元教
	前会長様	谷内伸自	吉岡誠一郎
	上原繁道	横山逸郎	虫明立生
	大教会奥様	谷内美知子	門脇加津
	前奥様	岡﨑和美	室悦子
	田中ますみ	田中つかさ	吉岡八恵
笛	上原浩	上原繁次	佐藤真孝
ちゃんぽん	杉原博之	山田敏教	内海史郎
拍子木	中村剛	高木昭祥	岡田誠
太鼓	田中隆之	中村道徳	上原繁次
すりがね	吉岡寿	三代温生	浅野明教
小鼓	中村義太郎	武内清明	赤木素志
琴	武内正美	岡﨑豊子	横山小智榮
三味線	上原順子	笹尾一美	上原千枝子
胡弓	今川佐智子	中村初美	山野なつ

修養科生の声

心の向きを変える為に

海松ヶ岡分教会　池田靖和

6月27日に教会本部修養科第970期を修了させていただきました。

修養科志願にあたり、3ヶ月やっていけるのか不安でしたが、一期講師の先生・教養の先生・クラスメイト・詰所内の皆さん・同室の3人のおかげで、充実した日々を過ごすことが出来ました。言うまでもなく、親神様・教祖の御守護がありお連れ通りいただけたものと思います。

回廊ホジック

教典・教祖伝の講義では、各章ごとにわかりやすく細かく解説してくださり、いままでよりも理解が深まったと思っています。みかぐらうたの講義では、各下りのテーマ・1首ごとの意味、又、使われている大和言葉の意味を教えて頂きました。大和言葉が解ると、お歌の解釈がしやすくなったように思います。

また、希望者のみですが、私は布教部社会福祉課の手話講習を受講させていただきました。短い時間でしたので、基礎部分を少しだけ教えていただけただけでしたが、なかなかに難しいものでした。

定時・特別ひのきしんでは、本部浴場清掃・神殿トイレ清掃・回廊拭き・回廊ホジック（**※註**）・西地下清掃と、いろいろなことをさせていただきました。個人的には、回廊ホジックが楽しくて時間が経つのが早かったです。

修養科生の特権である朝夕の神殿掃除では、東礼拝場の畳の掃除機掛け担当でした。広い上に、時間も限られているのでなかなか大変でした。

4月16日には、「はえでのおつとめ」に参拝させて頂き、別の日には夕勤後の教祖殿での御手直しにも行き、貴重な体験でした。

教祖誕生殿や大和神社、三昧田の教会にも連れて行って下さり、ありがとうございました。

この3ヶ月の経験・習ったことを無駄にしないように、心の向きをおぢばに向けて日々を通らせていただけたらと思います。

※註：「回廊ホジック」とは、薄いカードのようなもので、回廊の板の隙間のほこりをかき出して集めること。

ようぼくの1歩

海松ヶ岡分教会　藤原優人

私が修養科を一文字で表すとしたら「学」です。理由は、いろんな事を学ばしてもらったからです。

3月25日に笠岡詰所に着き、4月1日に修養科に入りました。詰所に着いた日から5日がとても長く感じ、早く修養科が始まってほしいと思いました。

そして修養科が始まり、教典・教祖伝・みかぐらうた・おてふり・ホームルーム・ねりあいの授業をしました。ねりあいでは、教典・教祖伝で疑問をグループ内で話したり、教祖伝逸話篇や教祖伝の中の出来事を今まで自身に起きた事と照らし合わせて修了後どのようにしていくかを話しました。鳴り物の練習の授業では、太鼓・ちゃんぽん・拍子木・すりがね・小鼓の正しい打ち方を教わりました。

私が一番苦労したのは、朝の神殿掃除です。最初は出発が5時ぐらいだったのが、日出が早くなり、最後には3時に出発という風になりました。私は朝が苦手で日々に時間が早くなっていき、起きるのに苦労しました。

逆に楽しかった事は、第一食堂のひのきしんです。食堂ひのきしんではモロ蓋を拭いたり、食洗機から流れきたお皿を仕分けして乾燥機の中に入れる作業をしました。最初は熱くてあまりできませんでしたが、次第に慣れていき勤務の方と同じような速さでできるようになりました。また、同じひのきしんに当たっている人と仲良くなり一緒にご飯を食べに行く事もありました。

修養科の最中にいろんな方から差し入れをたくさんもらったり、クラスご

とのひのきしんも楽しかったです。

そして、6月1日におさづけを拝戴させて頂きました。これも担任の先生方、教養の先生方のおかげです。修養科を修了してようぼくになった今、一日一日ひのきしんをし、教会の朝づとめをつとめ、親神様のご守護のありがたさを思い、勇んで通りたいと思います。

最後になりましたが、修養科で応援して下さった方々、詰所の先生方、誠にありがとうございました。

やっぱり、お道が好きだなぁ

福勇分教会　酒井　實

この度43年振りに、2度目の修養科へ出させて貰いました。

会う人毎に、何んで？ 今更どうして？ と、色々声を掛けてもらいましたが、私自身何とか新しい修養科生の一人でもと頑張って居りましたが、それも叶わず、結局、私一人で出る事と成りました。

久し振りの修養科生活も、昔と大分変って居るし、年齢も年齢だし、最初は、少し戸惑いもありました。

しかし3ヶ月つとめる間には、新たな出合いも沢山あり、笠岡の若い人達始めクラスの同期の人達にもたすけられ、何とか最後迄つとめる事が出来ました。

3ヶ月に亘り、詰所の先生方始め6人の教養掛の先生方にも色々お仕込み頂き、新しい発見も数多くありました。

残り少ない人生ですが、心新につとめさせて頂きたいと思って居ります。

最後に、やはり、この道が好きだと云う事がわかりました。

ありがとうございました。

御守護を感じたろヶ月

木津和分教会　丸山　智旬

私は、4月から6月末まで修養科970期生としてふせこみをさせて頂きました。修養科へ来るまでは、教校学園を卒業して、少年会本部で3年勤務をしていました。おぢばでの生活が長かったという事もあり、しんどい事や大変な事はありませんでした。その為、修養科生活も毎日楽しく過ごさせて頂く事が出来ました。

しかし、1ヶ月が終わりにさしかかった時、私は「この3ヶ月何もせずに終わるのはもったいない。何かできる事はないか」と思い、いろいろと考えさせて頂きました。考えた結果、残りの期間でたくさんの人に「おさづけ」を取り次がせて頂こうと思いました。

が、決断をしたはいいものの、私は人に「おさづけ」をあまり取り次いだ事がなく、最初はクラスの人にさえ「おさづけさせて頂いてもいいですか？」と声をかける事に緊張して、なかなか言えませんでした。しかし、決めたからにはしっかりとさせて頂こうと思い、緊張しながらではありましたが、毎日クラスの方に「おさづけ」を取り次がせてもらいました。

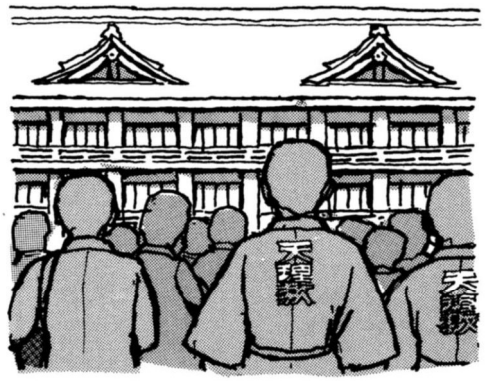
そして、2ヶ月に入った頃私の中で、「他のクラスの人にも声をかけておさづけを取り次ぐ」という思いになりました。最初はクラスに声をかけた時と同じく緊張していました。それに、他クラスという事もあり、喋った事がない人や声をかけても断られるのではないかなどと考え、とても勇気がいりました。しかし、実際の所声をかけてみると「よろしくお願いします」と受けて下さる人が多く、おさづけが凄く取り次ぎやすかったです。

そんなある日の事でした。いつも通りおさづけを取り次いでいると、私の中である考えが浮かびました。「おさづけで本当に人は助かるのか、意味はあるのか？」そう疑問を感じるようになった私は、おさづけをしている理由がわからなくなりました。そこから私が思っている疑問をいろんな人に聞いてみました。そうしていろんな人と話をしていると、ある人が「とにかくおさづけを取りつがしてもらいなさい。必ずわかってくる事が増えてくるから」と言われました。ただ、その話を聞いた時にはまだ「おさづけに対する意味」がわかりませんでした。そうして、1日1日が過ぎていきました。その期間もおさづけをやめることなくやり続けました。

5月に入った時でした。その日は本部員講話で、撫養大教会の土佐先生の話を聞かして頂きました。その話の中で土佐先生が「おさづけをするから身上がたすかるのではない。おつとめをして、理を頂いておさづけをする事に意味があるのだ」と言われました。私はその話を聞いて、おさづけについての考え方が変りました。その日以降、私は神殿でおつとめをする際、今まで以上に丁寧にさせていただくようになりました。

それを続けながら、おさづけを毎日取り次いでいると、担任の先生から「クラスの方で身上を持っている人の病院に行く回数が減った」と言う話を聞きました。また、他のクラスの人が1ヶ月目は車いすで修養科に来られていたのに、3ヶ月目には自分で歩きながら来られている姿を見たりしました。私はその姿見て、「信じておさづけを取り次げば、神様は御守護下さるのだ」と思いました。

修養科生活を通して、目に見えて感じたこの御守護は私自身すごく勉強になりました。修養科生活が終わって、おぢばを離れても学ばしてもらった教えを実践できるように今後も進んで通らせて頂きたいと思います。



大教会だより

◎第九七〇期修養科

自　立教185年4月1日
至　立教185年6月27日

＊教養掛（㊟主任、㊞副主任）

一ヶ月目
㊟岡﨑真一（大教会役員）
㊞貞清知実（三郡分教会長）

二ヶ月目
㊟岡﨑治喜（大教会准役員・弥高山分教会長）
㊞竹本和道（福芦分教会長）

三ヶ月目
㊟横山逸郎（大教会役員・東城分教会長）
㊞髙田一弘（真府分教会長）

＊修了者

海松ヶ岡　池田靖和
海松ヶ岡　藤原優人
福勇　酒井實
木津和　丸山智旬

◎教人資格講習会修了者

立教185年7月11日終講
木津和　丸山智旬

※お詫びと訂正

本年6月21日発行の『かさおか 第61巻 第6号』4ページ「五月月次祭祭文」の末尾の1段落が、そのまま欠如しておりましたので、次に追記いたします。

「何卒親神様には 陽気ぐらし建設のよふぼくとの自覚を持ってたすけ一条に励む皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に自由のご守護を賜り 助かりたいから助けたいへと心が変わって人皆助け合う陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます」